



警告のニューズレター「角笛」

発行日：2014年1月発行（第45号）

発行：警告の角笛出版

価格：フリーペーパー（無料）

角笛 HP: <http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

目次：

◎巻頭メッセージ「悪霊の教理」 エレミヤ

◎証「残りの者」 E3

◎お知らせコーナー 「黙示録セミナー」

< 巻頭メッセージ >

「悪霊の教理」 by エレミヤ

本日は悪霊の教理というタイトルでテモテ書から見ていきたい、と思います。

“1テモテ4:1 しかし、御霊が明らかに言われるように、後の時代になると、ある人たちは惑わす霊と悪霊の教え(教理:KJV)とに心を奪われ、信仰から離れるようになります。”

< 終末には悪霊の教理が起きてくる >

聖書は後の時代（KJVでは終わりの時代）になると、教会内に悪霊の教えとでもいふべき教理が起きてくること、そして、それに惑わされる人々が現れることを述べます。
上記テキストの通りです。

悪霊の教えやら、教理やらは、クリスチャンとも教会とも関係ないという考えもあるかもしれませんが、上記テキストには、「悪霊の教えとに心を奪われ、信仰から離れるようになります。」と悪霊の教えのゆえにクリスチャンがキリストへの信仰から離れることが明言されています。ですので、このことは、仏教や、イスラム教の寺院で起きることではなく他ならない、キリスト教会で起きようとする事への警告で

あることが良くわかるのです。

ですので、もし、私たちが、聖書の教えを気にしない、歯牙にもかけない、相手にもしないというのでもない限り、終末の日には、教会内で、悪霊の教えが起きてくる、しかもそれに惑わされる人々も結構出てくる、だから、その様な教え、悪霊の教理には気をつけるべきである、というまっとうな警戒感を上記みことばから持つべきなのです。

知っているつもりでもやはり、だまされる、とは今の時代にもよくあることです。オレオレ詐欺とうことばは、みな知っていると思うのですが、やはり、それでもだまされる人は後を絶たないようで、年に何百億円という被害が今でもあるとのこと。

同じく、悪霊の教理が終末の日に教会内に起きてくることを上記テキストは明言しており、どんなクリスチャンもそんなことは、みことばから知っているようですが、それでもやはり、騙される人が多いのではないのでしょうか。それで、今回はこのテキストを見たいと思っているのです。

< 悪霊の教理という特別な教理 >

パウロは終末の日に関連してわざわざ「悪霊の教理」という特別な教理に関して述べています。「御霊が明らかに言われるように、後の時代になると」として、ある特別な時代、すなわち、「終末」という教会時代の中でも特別な時代に「悪霊の教理」という特別な教理が現れ、出現することを前もって警告し、前もって、注意を喚起しているのです。

ですので、このみことばに関して我々が取るべき正しい態度は、「そんなの始めからわかっているよ。くどくどいうなよ。」という自信過剰な態度ではなく、逆に「悪霊の教理、そのような特別な教理が起きてくる特別な終末に生きる我々はよくよく気をつけるべきだ」という謙虚な態度であるべきだ、ということを知りましょう。

終末ではない時代、今までの教会時代にも色々おかしい異端や、惑わしは、ありましたが、それらは、いずれも「悪霊の教理」というレベルのものでなく、どこまでも人間レベルのおかしな教理であり、人間の常識や、観察眼で見分けたり、見抜いたりできるレベルのものだったのです。

そのレベルの異端は、たとえば、ものみの塔や、統一原理の教えがあるでしょうか。これらは、よく新聞を賑わすものみの塔、集団結婚式の統一原理として世間の未信者でさえ、おかしい、異端だと理解できるレベルのものであります。この世の新聞や週刊誌さえ、これらの教えに関して、おかしい教理であると語っています。しかし、これらの「人間の異端教理」レベルの異端を見抜いたからといって、「悪霊の教理」と聖書で特筆された終末の異端教理を見抜けるとは限らないのです。

<悪霊は人間より頭が良い>

突然の質問ですが、人間と悪霊とどっちが頭が良いのでしょうか？その答えとして、このテモテのテキストで悪霊と書かれていることばの

ギリシャ語は、ダイモニオンということばであり、その意味合いとして、辞書には、「霊的な存在。神よりも下位だが、人間より上位」と書いてあります。

ですので、答えとしては悪霊は人間より、頭が良い、ということになります。つまり、上記テモテのテキストでパウロが言いたかったのは、「終末の時代とは特別な時代であり、その時代になると今までのレベルを超えた悪霊的な教理による攻撃が教会に与えられるから、よくよく注意しろ」そういう意味合いと理解できるのです。

そして、何しろ私たちが悟り、理解し、警戒しなければならぬことは、悪霊は、人間よりは頭もよく賢いので、人間を騙すことは簡単である、ということです。「どうせ大した惑わしじゃないだろう。」「俺は絶対ひっかかるはずがない」などと、意味なく傲慢になるべきではありません。

最初の女性であるエバもこの悪魔、悪霊の惑わしには簡単にひっかかり、命の木から、追放されてしまったことを思い出しましょう。

<悪霊の教理は見破りづらい>

悪霊の教理はどのようなものなのでしょうか？想像するに、それは、異端教理であると見破りづらく、逆にすぐ納得しやすく、終始一貫しており矛盾がなく、多くの人が引っかかる教理であると想像できるのです。

オレオレ詐欺も最近では単純な手法でなく、警官役やら、弁護士役など何役もの「役者」が登場して、話がそれらしいので、引っかかる人が多いとのこと。レベルが高いのです。

<悪霊の教理が狙うこと>

悪魔やら、悪霊はその終末の日、テモテ書に書かれているように、悪霊の教理を教会にしかけて、何を狙うのでしょうか？その目的は何でしょうか？聖書的にいうなら、その目的は明らかであり、その狙うところはクリスチャンから永遠の命を奪うこと、このことに尽きます。主は悪魔に関して「始めから人殺し」であると述べました。ですので、悪魔、悪霊達が悪霊の教理を通して狙うものは、もっとも尊い、クリスチャンの永遠の命であり、そこに目標を定めていることを知りましょう。

＜悪霊の教理はキリスト教会のど真ん中に仕掛けられる＞

そして、悪霊の教えに関してもう一つははっきりと知らなければならないことは、その悪霊の教えはキリスト教会の外ではなく、その内部に仕掛けられる、ということです。このことを理解する助けとして主の初降臨の日のことを考えて見ましょう。

その日、聖書に預言された救い主イエスが神の民の間に現れたのに、その当時の聖書の専門家であるはずの、律法学者、パリサイ人達はこの方を悟ることも理解することもできませんでした。何故でしょうか？その理由はやはり、彼らがおかしな教理、はっきりいえば、悪霊の教理のとりこになっていたからです。

その結果、悪霊の教理に惑わされた彼らは、あろうことか、聖書で約束された救い主を逆に捕らえ、逮捕し、裁判にかけ、あげく殺してしまったのです。その結果、彼らは間違いなく、ゲヘナに入ったことでしょう。悪霊の教理に惑わされた彼らは永遠の命を失ったのです。

いかに悪霊からの教理に惑わされることが恐ろしい結果を招くか理解できるでしょう。そして、悪霊の教理がその当時の神の民の中心を惑わしていたという事態をも理解できるのです。

初降臨の日に起きたことは再臨の日に再現し

ます。終末の日にキリスト教会を席卷する悪霊の教理はキリスト教会の外ではなく、逆にキリスト教会の中心部分を侵食し、結果多くの神の民が永遠の命を失うことが想像できるのです。

＜カソリックは悪霊の教理に侵食されている＞

今の時代のキリスト教会、たとえば、カソリックを考えるなら、悪霊の教えにその中心部分を侵食され、結果、教会全体として、永遠の命を失う方向へまっしぐらに進んでいることを見ることができます。

ローマ法王は「進化論はあまりに科学的なので否定できない」と語ります。要するに神が人を創造したと書いてある聖書の創世記は神話、物語だといっているのです。このような教理を聞いたカソリック教徒は、結果として、聖書のみことばへの信仰さらに救い主キリストへの信仰を失っていきます。

さらにローマ法王は地獄はない、存在しないと説きます。このような嘘八百の教えはカソリック教徒を油断させ、結果、彼らを滅びの火に入れる、悪霊の知恵に満ちた教えであり、確かに悪霊の教えがカソリックを席卷していることがよくわかるのです。

＜プロテスタントも悪霊の教理に侵食されつつある＞

さて、プロテスタントはどうなのでしょう？私の理解ではプロテスタントも同じく悪霊の教えに席卷されており、その中心教理がすでに悪霊の教え、教理に侵食されているように見えます。

たとえば、プロテスタントでは、クリスチャンと名がつけば、救いから漏れることはなく、滅びることはないと言います。

これが本当なら、誰でも万々歳の結構な教えです。しかし、少し聖書のみことばを考えただけでもこのような教えは、荒唐無稽であり、主の教えとは無縁の悪霊の教理であること、クリスチャンを油断させ、永遠の命から遠ざける悪霊の知恵に満ちた教えと理解できます。聖書のみことばからこの様な教えの矛盾を考えてみましょう。

(狭い門)

主は、永遠の命に関してその道は狭く、門も狭いと告げました。以下の通りです。

“マタイ7:13 狭い門からはいりなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこからは行って行く者が多いのです。

7:14 いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。”

主は上記の様に永遠の滅びに至る門は大きく、その道は広く、そこから入っていく者が多いことを告げました。また、永遠の命に至る門は小さく、その道も狭く、それを見出すものはまれであるとはっきり述べました。

そうであるのに、このような明確な主のことばにもかかわらず、一回洗礼を受けたから、一度イエスを主と告白したから、何が何でも絶対永遠の命を間違いなくゲットできるとの昨今のキリスト教会で教えられている教えは全く悪霊的であり、聖書に根拠のない安心をクリスチャンに与え、結果、彼らが永遠の命を得ることを妨げているのです。

(賢い乙女、愚かな乙女)

クリスチャンはキリストの花嫁にたとえられます。しかし、だからといって、全てのクリスチャンがその日、キリストの花嫁として迎えらるのでしょうか？聖書はそうは述べていません。

むしろ、花嫁候補の娘たちの間に選別があり、賢い娘たちは、迎えられるが、そうでない娘たち、愚かな娘たちは、迎えられず、逆にその日に主から知らないといわれることを述べています。以下の通りです。

“マタイ25:10 そこで、買いに行くと、その間に花婿が来た。用意のできていた娘たちは、彼といっしょに婚礼の祝宴に行き、戸がしめられた。

25:11 そのあとで、ほかの娘たちも来て、『ご主人さま、ご主人さま。あけてください。』と言った。

25:12 しかし、彼は答えて、『確かなところ、私はあなたがたを知りません。』と言った。”

ですので、救いを受ける、キリストを信じる、クリスチャンとして歩みだすことは一つのことですが、その歩み方しだいで、結果は異なるのです。その歩みの結果、ある人々は、賢い娘として、キリストに受け入れられる、しかしある人々は残念ながら、キリストから受け入れられない、と語ることが聖書的に正しい教理なのです。

何でもかんでもクリスチャンと名がつけば、いやでもその日にキリストは花嫁として受け入れてくださるとは、今の時代にはびこる悪霊の教理であることを知らなければなりません。

(麦と毒麦)

クリスチャンはまた、麦にもたとえられます。麦はパンに通じ、すなわち、パン、いのちのことばを聞いて育つものとして、麦とはクリスチャンをさすたとえなのです。そして、その麦、クリスチャンの運命に関して、聖書は明確に麦と毒麦の区分があることを語ります。麦と名がつけば、みな、天国に入るとは述べていないのです。以下の通りです。

“マタイ13:29 だが、主人は言った。『いやいや。毒麦を抜き集めるうちに、麦もいっしょに抜き取るかもしれない。』

13:30 だから、収穫まで、両方とも育つままにしておきなさい。収穫の時期になったら、私は刈る人たちに、まず、毒麦を集め、焼くために束にしなさい。麦のほうは、集めて私の倉に納めなさい、と言いましょ。』
13:38 畑はこの世界のことで、良い種とは御国の子どもたち、毒麦とは悪い者の子どもたちのことです。

13:39 毒麦を蒔いた敵は悪魔であり、収穫とはこの世の終わりのことです。そして、刈り手とは御使いたちのことです。

13:40 ですから、毒麦が集められて火で焼かれるように、この世の終わりにもそのようになります。

13:41 人の子はその御使いたちを遣わします。彼らは、つまずきを与える者や不法を行なう者たちをみな、御国から取り集めて、

13:42 火の燃える炉に投げ込みます。彼らはそこで泣いて歯ざしりするのです。”

ここに明記されているように、麦、クリスチャンにも良い麦と毒麦との区分があるということが、聖書の語る教えです。そして、クリスチャンであり正しい教理に留まる人は良い麦として倉、天の御国に入るでしょうが、おかしい教理をつかんだクリスチャンは毒麦として火で焼かれるようになる、ということがこの箇所が語っていることなのです。クリスチャンなら、麦ならみな、倉、天の御国に入ると主張することは聖書を逸脱した教えであることがわかるでしょうか。

＜終末の教理は悪霊の教えに侵食されている＞

上記の様にクリスチャンの永遠の命に関する教理もすでに悪霊の教理に席卷されています。そして、それとともに、他の教理、特に終末の教理は悪霊の教理に席卷されていることを知しましょう。

聖書は多くのページを割り、分量をさき、終末について語ります。その理由は何故でしょうか？その理由は、健全な教理に基づくなら、以下の通りです。

- 1 終末の災いや艱難は全てのクリスチャンに関係するから
- 2 終末の惑わしは多くのクリスチャンを滅びに至らすから
- 3 終末の日多くのクリスチャン、教会は背教に入るから

それに反して悪霊の教理、悪霊の語る終末の教理には以下の特徴があります。

1. 終末の災いや艱難は、一部の人（ユダヤ人な

ど）に起きることであり、クリスチャンには関係ないとして、多くのクリスチャンを油断させる

2. その日、教会は艱難の前に挙げられるとして、（だから艱難時代への備えは不要）根拠のない安心をクリスチャンに与え、油断させる。
3. 聖書に明記された教会の背教を語らない。

悪霊の教えには特徴があり、それは、クリスチャンに良いこと、楽しいこと、気楽なことを語り、結果として、惑わして滅びに至らせるという特徴です。現在の教会で語られている終末教理はどれもこの特徴を満たしており、クリスチャンに根拠のない安心を与え、滅びに至らせようとしています。このような教えを語る人々は羊の皮を着た偽預言者であることを知るべきです。以下のことばの通りです。

“マタイ 7:15 にせ預言者たちに気をつけなさい。彼らは羊のなりをしてやって来るが、うちは貪欲な狼です。”

具体的には、現在のキリスト教会を席卷しているハル・リンゼイ、レフトビハインドを始めとした終末教理は上記条件を満たしており、悪霊の教えとしか思えないものなのです。次回はこのことを語りましょう。

—以上—



悪霊の教え

最近、エレミヤのHPのメッセージを通して教えていただいたことがありましたので、そのことについて証をしたいと思います。

ニュースレターの終わりのページに、当教会のHPの案内をしていますが、そこにアクセスしていただいたことはありますか？それはどちらでもよいのですが・・・今回、No.244「サルデスのことば」というタイトルのメッセージから、神さまがとても大事なポイントについて語られていると思いましたので、そのところから話をしたいと思います。

まず、みことばを見てみたいと思います。

参照 ヨハネの黙示録3:1-6

- 1.また、サルデスにある教会の御使いに書き送れ。『神の七つの御霊、および七つの星を持つ方がこう言われる。「わたしは、あなたの行ないを知っている。あなたは、生きてるとされているが、実は死んでいる。
- 2.目をさましなさい。そして死にかけているほかの人たちを力づけなさい。わたしは、あなたの行ないが、わたしの神の御前に全うされたとは見ていない。
- 3.だから、あなたがどのように受け、また聞いたのかを思い出しなさい。それを堅く守り、また悔い改めなさい。もし、目をさまさなければ、わたしは盗人のように来る。あなたには、わたしがいつあなたのところに来るか、決してわからない。
- 4.しかし、サルデスには、その衣を汚さなかった者が幾人かいる。彼らは白い衣を着て、わたしとともに歩む。彼らはそれにふさわしい者だからである。
- 5.勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。そして、わたしは、彼の名をいのちの書から消すようなことは決してしない。わたしは彼の名をわたしの父の御前と御使いたちの前で言い表わす。」
- 6.耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。』

前にも話したと思いますが、「サルデスの教会」は、「プロテスタントの教会」を指します。ですから上記のみことばで言わんとしていることは、プロテス

タントの救いが危ない、ゆえにそのことを前もって回避するためには、3節で言われているように、目を覚ましてきちんと悔い改めなさいということです。このことについては、エレミヤ牧師もニュースレターですでにメッセージされていることなので、詳細についてお知りになりたい方は、バックナンバーをお読みいただけたらと思います。(ご希望の方は、申し出ていただければ、送らせていただきます。)

さて、今回取り上げたいことは、2節のみことば「ほかの人たち」ということばです。そのことばに関して、エレミヤの部屋のHPのメッセージでは、このように書かれています。

以下は、エレミヤの部屋のHPのメッセージNo.244の一部です。

「ほかの人たち」とは、他の箇所では「残りの者」と訳されています。「残りの者」とは、聖書の中で特別な意味合いがあることばなのです。これはたとえば、バビロンの日にイスラエルへ戻ってエルサレムを再建した人々に通じます。彼らは神の御心の民です。しかし、この教会においてこの少数の「残りの者」さえ死にかけていると言われているのです。大変危機的な状況であることがわかります。

補足までに少し説明させてください。「バビロンの日にイスラエルへ戻ってエルサレムを再建した人々」とは、エズラやネヘミヤをはじめとする宮や都の再建に携わった人たちのことを指します。何を再建したのか？と言うと、教理&霊的な事柄の建て直しを彼らはしたのです。彼らの時代、教理も霊的なことも、曲がり曲がっていたので、エルサレムの再建、すなわち今で言う教会の教理や霊的な事柄に関する回復が必要だったのです。そしてこのことは、まさに新約の終末の時代を生きる我々クリスチャンにも大いに関係する事柄です。レムナントキリスト教会ではすでに実践していることではありますが・・・ちなみにエズラやネヘミヤの時代もそうであったように、今の時代においても教理や霊的な回復に携わる働きというのは、バビロン(私たちは、バビロンはアメリカのことだと思っていますが)のおかしな教理から目覚めて、自らの意思で

バビロンゆかりの教えを語る教会から離れて、仮庵の祭り(地下教会)に入っていく人たちで行われるわけなのですが・・・

そして地下教会でそのような働きに携わっている人、すなわち「残りの者」と言われている人の中でも、「死にかけている人」がいるということを言われているのです。

レムナントキリスト教会は地下教会です。聖書的に言うなら、「荒野の教会」です。しかし、そこにいるからと言って、必ずしも安全なのか？と言うと、そうではないということを言われているのです。(そのことに関しての詳細はHPのメッセージNo.244にありますので、ぜひ、読んでみてください。)

前にも話したと思いますが、これからキリスト教会は、獣の国アメリカが台頭していく中で、反キリストの教えが教会内に席卷していきます。たとえば同性愛を受け入れない教会は法律をもとに非合法の教会ということになっていくでしょう。聖書ではそういったことを前もって語っていますし、反キリストの教えを受けない人はいずれ教会から出なければいけなくなるので、仮庵の祭りをすること、つまり地下教会で教理&霊的な回復の働きをしなさいということを再三おすすめています。ゆえに公の教会から離れて、地下教会に入っていくことは正しいことなのですが・・・だからと言って、万事OKというわけではなさそうです。

私が正統派と言われる教会から出た直後に、その教会員の方から、「なぜ、教会に来なくなったの？」と連絡をいただいたことがあります。かくかくしかじかの理由で、という風に話をし、「今は安全です。荒野の教会に行っていますので。艱難前携挙説とかのおかしな教理からも離れることができましたので。」と話したら、「何を言っているの？安全な場所なんてどこにもないよ！」ということをおっしゃっていました。そのことにすぐに納得はできませんでしたが、祈りの中で「神さま、今は荒野の教会にいますけど、それだけではダメなのではないか？」と聞いたならばらしくして、「そうだ、荒野の教会にいるからと言って安全ではない。あなたが公の教会を出たのはたしかに正しい。しかし、それはそれでひとつのことです。歩みを矯正し、正しく働きを

するための一歩にしか過ぎません。要はそこできちんと歩むかどうかです」という語りかけを受けました。もちろん音声として神さまが語ってくださったわけではなく、自分の心中にふと、そんな思いが与えられたのでした。

なので、エレミヤの部屋のHPのメッセージを読んで、「ああ、なるほど！」と改めてうなずくものがありました。エレミヤ牧師がメッセージを執筆なさった時期や私が歩みの方向を変えたり、神さまの語りかけを受けたタイミングはそれぞれですが、やはり同じ御霊さまが導いているのだなあという風に思いました。

黙示録には淫婦バビロンについて書かれていて・・・「淫婦バビロン」とは、アメリカ由来のおかしな教理や霊について言われていますが、「この女から離れなさい」と言われているように、そこから出て行き、地下教会を行う時代が来つつあるのでは？という風な語りかけについても、今回の件を通して神さまから受けたように思いました。そして、せっかく地下教会に入ったのなら、そこできちんと歩みをし、働きをしていきたいと思っています。いくら地下教会にいても、「死にかけている」という風に神さまに見なされてしまうときに、天の御国が危なくなる可能性があるのです。気をつけていきたいと思えます。

いつも大切なことを語ってくださる神さまに栄光と誉れがありますように。

—以上—



残りの者

<お知らせコーナー>



- ◆神により永続を約束され、万世一系が決して途絶えないことを約束されたダビデ王朝は、400年の歴史の後、バビロン捕囚を契機に歴史の闇に消え、その行方はようと知れない。
- ◆全能の神、聖書の神の堅い約束、「ダビデには、イスラエルの家の王座に着く人が絶えることはない。」との約束は破られ、万世一系は、果たして途絶えてしまうのか？
- ◆バビロン捕囚により、ダビデ王朝が行方不明となったのは、今から2600年ほど前のことである。
- ◆その頃、東の島国において、万世一系の王朝が誕生する。
- ◆この王朝、皇紀2600年を誇る万世一系の天皇家こそ、ダビデ王朝の正当な後継者ではないのか？
- ◆人種、言語、文化、習慣、歴史、あらゆる面において、天皇家とダビデ王朝には、類似性がある

エレミヤの新刊。「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」

定価：1500円+消費税。12月1日発売。

ご注文の方は以下まで、連絡下さい。

警告の角笛出版： fax: 020-4623-5255, メール truth216@nifty.com